



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

SUWA

諏訪の 景気動向

製造業 p2

回復傾向も景況感に差

商業 p4

団体客が増加傾向

観光・サービス業 p5

好天猛暑で避暑客増加

建設業 p6

市町村からの受注額増

2023
8月

(2023年7月末D・I調査)

CONTENTS

概況	1
製造業	2
製造業 受注状況	3
商業	4
観光・サービス業	5
建設業	6
収益性状況	7
雇用状況	8
経営上の課題	8
諏訪地方主要経済指標	8
2023年7月の状況	9
● 価格転嫁	9
● 材料電気等コスト	9
● コロナの影響	10
● 労働力（パート含む）	10
● 自社の業況	11
● 収益性	11
回答全社：業況判断DIの推移	12
調査概要	12
コラム「ビッグモーターの今後と経営の原理原則」	13

お天気マーク（調査月から見た状況）



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上好転したか、3ヵ月前に好転して横ばいの時。



回答全社は好転しているものの、業種によって悪化企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が0～9ポイントの好転または悪化か、3ヵ月前も同様に横ばいの時。



回答全社が悪化しているものの、業種によって好転企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上悪化したか、3ヵ月前に悪化して横ばいの時。

概況

2023年7月アンケート調査および 企業訪問ヒアリング調査による取りまとめ

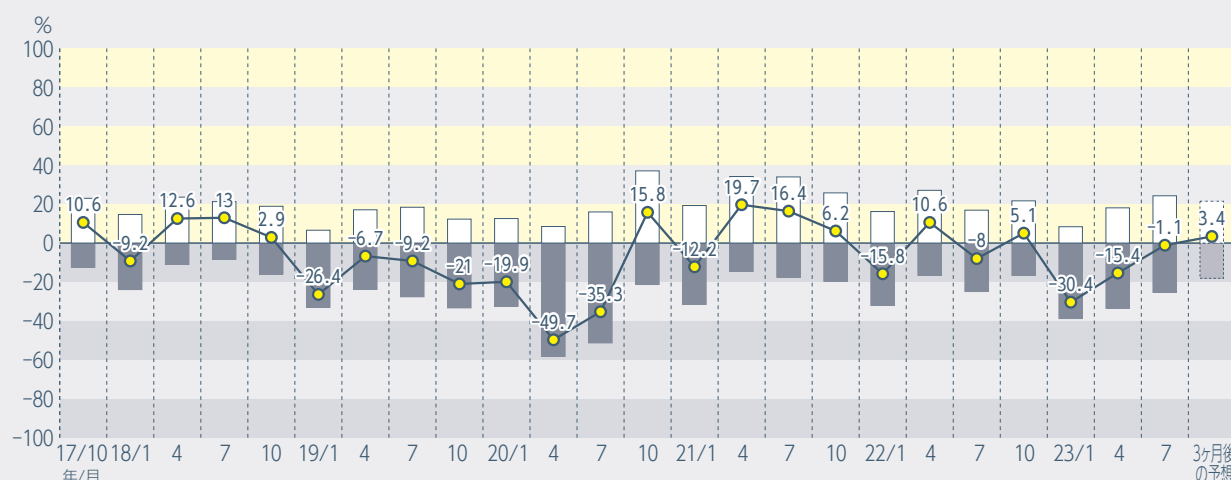
諏訪地方177社のご協力で行った2023年7月の「景気動向調査 (DI調査)」は、**回答全社の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIが△1.1**で、前回調査時(2023年4月末、以下同)の△15.4から、**14.3ポイント改善**した。「3ヵ月前」と比べた製造業の業況判断DIは△14.1で、前回の△28.6から改善した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは21.9で、前回の11.7からさらに改善した。「3ヵ月後」の業況予想DIは、製造業が前回の△2.5から△3.5へやや悪化したが、非製造業は15.6で前回の11.6から改善し、回答全社では3.4(前回2.2)となった。

7月時点の総体的な改善傾向は、新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類へ移行され、ハイシーズンに規制がなく集客できた**観光・サービス業の伸び**によるところが大きい。製造業も緩やかに改善方向に向かっているが、景況感は企業によって差がある。原材料やエネルギーのコスト上昇に対し、価格転嫁できていない企業も多い。また、**経営上の課題に労働力確保と人件費の両方**を挙げる企業が多く、雇用面の葛藤も見られる。

●産業別業況表

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答 企業	好転	横這	悪化	D I	回答 企業	好転	横這	悪化	D I	回答 企業	好転	横這	悪化	D I
全 体	177	24.3	50.3	25.4	-1.1	177	22.6	43.5	33.9	-11.3	177	21.5	60.5	18.1	3.4
製 造 業	113	19.5	46.9	33.6	-14.1	113	17.7	38.1	44.2	-26.5	113	19.5	57.5	23.0	-3.5
非 製 造 業	64	32.8	56.3	10.9	21.9	64	31.3	53.1	15.6	15.7	64	25.0	65.6	9.4	15.6
商 業	30	30.0	50.0	20.0	10.0	30	30.0	46.7	23.3	6.7	30	30.0	60.0	10.0	20.0
建 設 業	20	20.0	75.0	5.0	15.0	20	20.0	65.0	15.0	5.0	20	25.0	65.0	10.0	15.0
観光・サービス業	14	57.1	42.9	0.0	57.1	14	50.0	50.0	0.0	50.0	14	14.3	78.6	7.1	7.2

●回答全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移





3ヵ月前との比較

「好転」企業が前回の14.8%から19.5%へ増加し、「悪化」企業が43.4%から33.6%に減少した。悪化幅は縮小しているが、依然マイナス水準で推移している。原材料やエネルギー等コストは43.4%の企業が「上昇」とし、前回の64.8%より低下したものの、依然コスト高が続いている。

3ヵ月後の予想

「悪化」予想の企業は前回と同じ23.0%だが、「好転」予想の企業が20.5%から19.5%に減少し、業況予想DIは△3.5と前回の△2.5より悪化幅が広がった。中国景気の後退をはじめ、海外需要の回復が見通せず、在庫調整や生産調整の影響を受ける企業もあり、先行き不透明感がある。

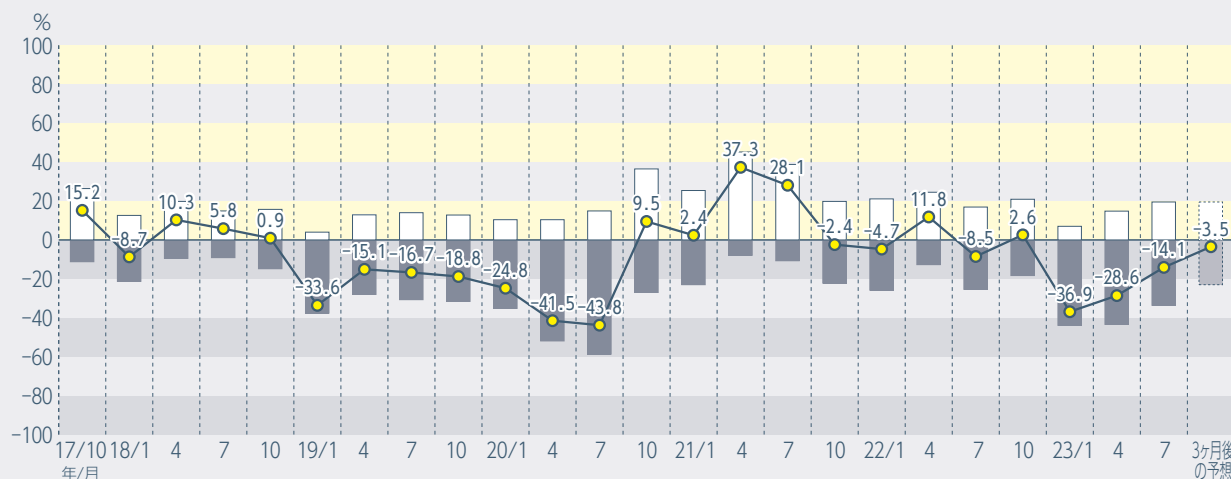
総体的な状況

前回に比べ、緩やかながら好転しているものの、地域企業の景況感は芳しくない。「大手自動車メーカーの生産・販売回復のニュースを見ると、周辺の今の経済状況が不思議で仕方がない」というコメントに心情が表れている。一部好調な企業もあるが、総体的には動きが鈍い。自動車関連は、各社増産計画があるが、部品の在庫状況などによって下請企業の受注は不安定で、明暗が分かれている。ただ、内々示には、明るい兆しもある。半導体関連は低調が続く見込み。価格転嫁の状況は、7月時点で3ヵ月前との比較では、「完了」した企業が11.5%、「転嫁不足」を感じている企業23.0%、「不変」65.5%だった。取引先との力関係などで価格転嫁できていない企業は多い。

企業のひとこと

- 細かい受注は増えているが、総体的な受注が減り、今まで比較的安定していた分野での落ち込みが長期化している。今後、どうなっていくのか先が見えず不安（金属製品製造業）。
- リーマン・ショック時以来の受注状況で、今回の方が長引いていくと思われる。中国向けの輸出規制、輸入規制が少なからず影響している（一般機械製造業）。
- 半導体業界（スマホ、PC向け等）は、総体的に過剰感が強く、新規受注再開の時期が見通せない状況が続いている。パワー半導体分野は悪くない（電気機械製造業）。
- 5月頃までは連日深夜残業だったが、受注減少で現在は定時退社している。ここで退職者があり、その理由が「残業がなく稼げないから」だった（輸送用機械製造業）。
- 新規受注の引き合いはあるものの、契約に至るまでに時間を要している上、受注が決まっても開始時期が延びるケースが出ている。今は耐える時（精密機械製造）。

●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



製造業 受注状況

3ヵ月前との比較

製造業回答全社の受注状況DIは△19.5で、前回調査時の△27.1から悪化幅が縮小した。前回より「増加」企業が増え、「減少」企業が減った。規模別では、「1～29人企業」は△16.6で前回の△29.7から改善し、「30～99人企業」は△37.5で前回の△22.8から悪化した。「100人以上企業」は23.1で△28.6から改善しプラス水準となった。業種別（主要5業種）では、「金属製品」が△26.5から△10.0、「電気機械」は△35.0から△5.0、「輸送用機械」が△36.4から0.0、「精密機械」は△53.8から△45.4へ改善したが、「一般機械」は△16.2から△33.3、へ悪化した。

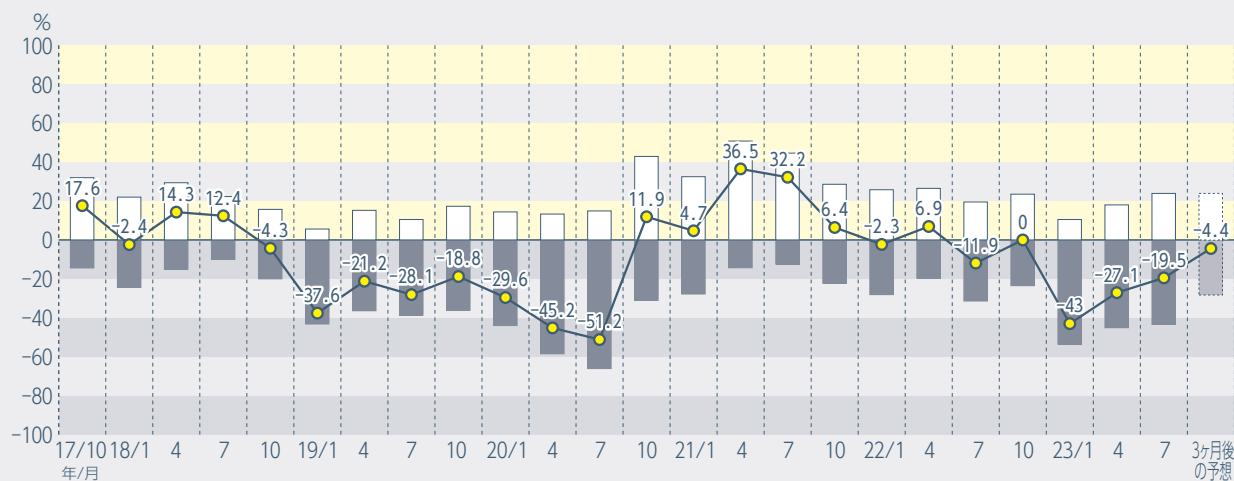
3ヵ月後の予想

不安定な受注から、先行きに不透明感がある企業が多いが、製造業回答全社の受注予想DIは△4.4で、前回の△8.2から改善した。規模別では「1～29人企業」が△5.0で前回の△7.8からやや改善し、「30～99人企業」は△10.0で△9.1からやや悪化した。一方、「100人以上企業」は15.4で△7.2から改善しプラス水準となった。業種別（主要5業種）では、「金属製品」が前回の△11.7から3.4、「一般機械」は△16.1から△11.1、「電気機械」は△20.0から△10.0へ改善し、「精密機械」は△7.7から△9.1へ悪化した。「輸送用機械」は△9.1で前回と同様だった。

●業種別・規模別受注状況表

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		113	23.9	32.7	43.4	-19.5	113	22.1	25.7	52.2	-30.1	113	23.9	47.8	28.3	-4.4
規模	1～29人	60	26.7	30.0	43.3	-16.6	60	23.3	33.3	43.3	-20.0	60	23.3	48.3	28.3	-5.0
	30～99人	40	12.5	37.5	50.0	-37.5	40	20.0	15.0	65.0	-45.0	40	22.5	45.0	32.5	-10.0
	100人～	13	46.2	30.8	23.1	23.1	13	23.1	23.1	53.8	-30.7	13	30.8	53.8	15.4	15.4
中分類	金属製品製造業	30	30.0	30.0	40.0	-10.0	30	16.7	30.0	53.3	-36.6	30	26.7	50.0	23.3	3.4
	一般機械製造業	27	11.1	44.4	44.4	-33.3	27	7.4	29.6	63.0	-55.6	27	22.2	44.4	33.3	-11.1
	電気機械器具製造業	20	25.0	45.0	30.0	-5.0	20	40.0	15.0	45.0	-5.0	20	25.0	40.0	35.0	-10.0
	輸送用機械器具製造業	11	36.4	27.3	36.4	0.0	11	27.3	36.4	36.4	-9.1	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
	精密機械器具製造業	11	18.2	18.2	63.6	-45.4	11	18.2	9.1	72.7	-54.5	11	18.2	54.5	27.3	-9.1

●製造業：「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移





3ヵ月前との比較

業況判断DIは10.0で、前回の10.7とほぼ同様に**プラス水準で推移**した。新型コロナの影響がないとする企業は前回の32.1%から53.3%に伸びた。来店客数DIは、物価高騰による節約志向の強まりなどで、前回の7.1から△3.3へ悪化した。多品目の値上げで、客単価は33.3%の企業が上昇した。

3ヵ月後の予想

業況予想DIは、前回より「好転」企業がやや減少したが、「減少」企業も減り、前回の17.8から20.0へ伸びた。一方、売上予想DIは、**消費者の低価格志向や人手不足による機会損失**などの影響で、前回より「増加」企業が減って「減少」企業が増え、21.4から3.4へ悪化した。

■スーパー

好天が続き、果物が例年より早く出荷されている。お中元、農産物等のギフトは「産直ギフト」が好調に推移している。

■自動車

諏訪地方の7月の車庫証明件数は851件で、前年同月比65件、8.2%増加した。

■イベントホール

大規模イベントは再開。企業単位の小規模宴会は動きが鈍い。猛暑で冷房の電力消費が激しい。

■飲食店

家族、会社関係に加え、消防団など団体の宴会も入るようになってきた。仕入状況は引き続き、高止まりしていた。

■野菜直売所

梅雨に雨が少なかった上、大型バスの来場も多く順調。猛暑で別荘顧客の入りが多い。

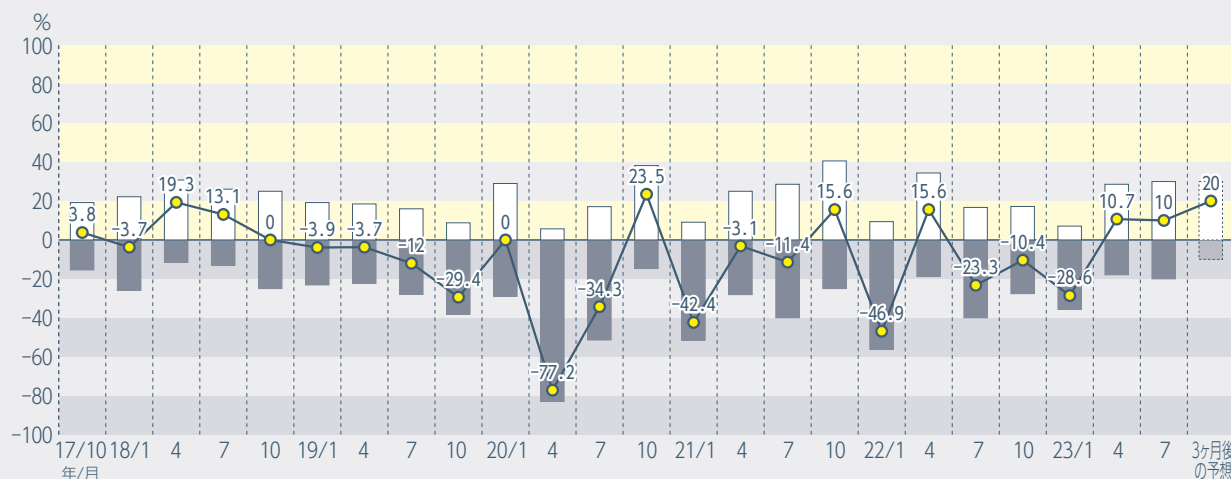
■家電

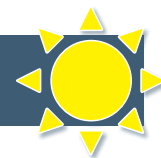
猛暑でエアコンや冷蔵庫が好調。コストへの関心が強まり、経済効果の高い商品がすぐ品切れした。

企業のひとこと

- 昨年の売上のピークからまもなく1年。これまでは単価上昇分で売り上げを確保した経緯があるが、ここからは販売点数、客数増が必須課題となる（大型小売店）。
- 最低賃金引き上げに伴い、10～11月にはさらなる値上げを検討中。地方発送は、ガソリン高騰で料金を送料込みから送料別へ改定する（食品販売）。
- 人手不足で、予約をお断りする状況が続いて、もったいない。コロナ禍で離職した若い料理人は、現在他業種に就職しており、料理界へ戻ってくる可能性は低い（飲食店）。
- 長野県内のレギュラーガソリン店頭平均価格（7月31日現在）は、1ℓあたり186.4円となり、11週連続全国最高値だった。国からの補助金の縮小などで、当面ガソリン価格は高値で推移する見込み（燃料販売）。

●商業全社：「3ヵ月前」と比した業況判断DIの推移





前年同期との比較

新型コロナ第7波が急拡大した前年同月に比べ、売上DIは35.8で、宿泊客数DIも50.0と**大幅なプラス水準**だった。前年も強い行動制限はなく、各種割引効果もあったが、アフターコロナへ意識変化した観光客の増加や宿泊単価の値上げなどで、業況判断DIは「悪化」企業がない50.0となった。

3ヵ月後の予想

トップシーズンが過ぎ、宿泊客数DIは△14.3と減少予想が多いが、売上DIは21.5とプラス水準で、秋の行楽シーズンの業況予想DIは7.2と、**好転予想が悪化予想を上回る**。仕入価格の高騰、人手不足と人件費上昇、宿泊料金の見直しなど舵取りが難しい中、経営努力が続いている。

■上諏訪温泉

夏休みが始まりファミリー層の需要が多かった。総体的に稼働率は、コロナ前の水準まで戻っているが、人手不足で予約があっても対応しきれず、機会損失も発生した。人材確保に向け、信州豊南短期大学と連携して、学生（主に外国人留学生）の受け入れを呼び掛ける動きもある。

■下諏訪温泉

前年度まで縮小されていた学生の合宿の復活やインバウンドで宿泊客が増加した。

■蓼科・白樺湖・富士見高原

ハイシーズンに入って好天と猛暑が続き、避暑を兼ねた首都圏からの入り込みが多かった。宿泊単価の値上げもあり、7月として過去最高の売上となった宿泊施設もある。蓼科では、道の駅が満車に近い状態の日が続いた。

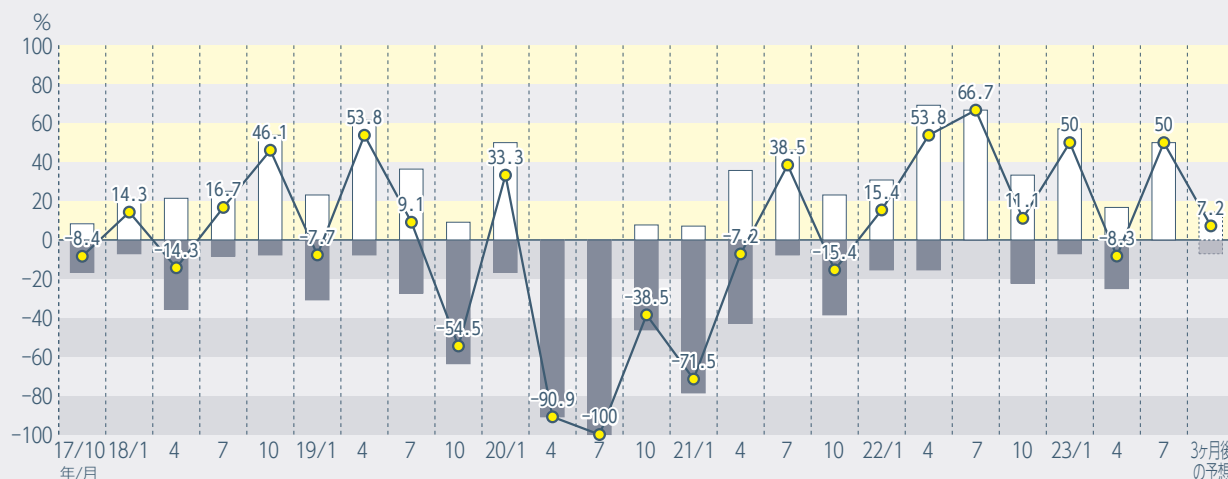
■諏訪大社

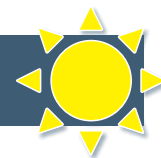
上社・下社合わせた7月の参拝者数は、約8万9千人だった。前年同月比約6千人、7.5%増加した。

企業のひとこと

- 猛暑ではあるが、好天が続いたことは、観光地としては本当に助かった。昨年、一昨年のように、これから台風の影響を受けないことを願っている（ホテル）。
- 観光客が増加していることは良いが、本来は禁止行為であるキャンピングカーによる車中泊（全国的な問題）も増加している。公共トイレが汚れるケースもあり、対応に苦慮している（観光協会）。
- 好天と猛暑が続き、都会からの避暑客は多いが、宿泊客の動きが以前と変わりつつあり、中規模施設は直前まで予約が読めなくなっている（旅館）。
- 通常モードでの営業になり、コロナ前同様に行事、イベントを開催していく予定。夏の映画祭や星祭り等のイベント準備を進めている。ピークは8月いっぱい（観光施設）。

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比した業況判断DIの推移





3ヵ月前との比較

業況判断DIは「好転」が20.0%、「悪化」が5.0%の15.0となり、**前回の5.0から改善**した。外注発注量DIも前回の△5.0から20.0へ増加している。建設資材や燃料費の高騰に対し、価格転嫁は15.0%が「完了」し、10.0%が「転嫁不足」とし、75%は「不変」としている。

3ヵ月後の予想

業況判断予想DIは「好転」が25.0%、「悪化」が10.0%の15.0で、前回の0.0から改善している。受注単価DIは0.0で、前回の10.0からやや悪化した。補助事業関連の民間工事に対する需要は多いが、工期が短く、業界の慢性的な**人手不足で工事の進捗が懸念**されている。

6月の新設住宅着工戸数

諏訪地方の合計は66戸で、前年同月比5戸増加(8.2%)した。2023年4～6月の累計着工戸数は205戸で、前年同期比25戸減少(△10.8%)。持ち家18戸、貸家10戸が減少し、分譲が3戸増加した。長野県全体は1,061戸で、前年同月比2.4%減少した。

7月の諏訪地方市町村からの受注状況

建築工事5件954百万円、土木・水道工事58件595百万円、その他工事25件212百万円の合計88件1,761百万円だった。前年同月比では、件数は4件

減少し、契約金額は915百万円増加(108.1%)した。

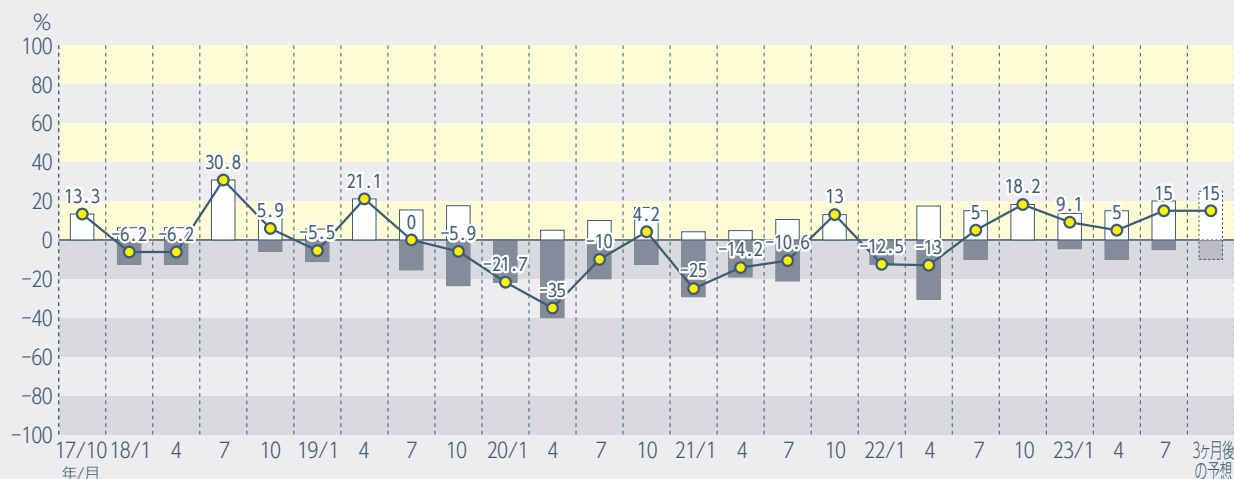
7月の地元企業が受注した国県関係の公共工事

合計6件431百万円で、前年同月比で件数は8件減少し、契約金額も821百万円減少(△65.5%)した。2023年4～7月の累計は、30件1,755百万円だった。前年同期比で件数は6件減少し、契約金額も963百万円減少(△35.4%)した。例年に比べ工事数が少なく、入札しても資材等の高騰の影響で、不調になることもある。

企業のひとこと

- 建設業界は昔から人材不足に悩みが尽きないが、働き方改革の昨今は、さらに人材確保が困難になっている。経済や生活にかかる全てのモノが値上されている気がするが、給料だけは上がらない(上げられない)。
- 現在は公共事業より民間工事の方が活発で、新規案件の相談が多いが、人員不足で年内は新規契約しても着工できない。
- 昨年来の建設資材、燃料費の高騰を受け、原価率の上昇分は建設単価の見直しが図られつつあるが、他社との競争があるため、大幅な単価引き上げはできない。
- 台風や突風などで足場が倒れる事故が発生しており、現在の気候状況に配慮した現場管理が必要となる。現場で事故が発生すると大変なことになるため、日頃から細心の注意を払って現場管理している。

建設業全社：「3ヵ月前」と比した業況判断DIの推移



収益性状況

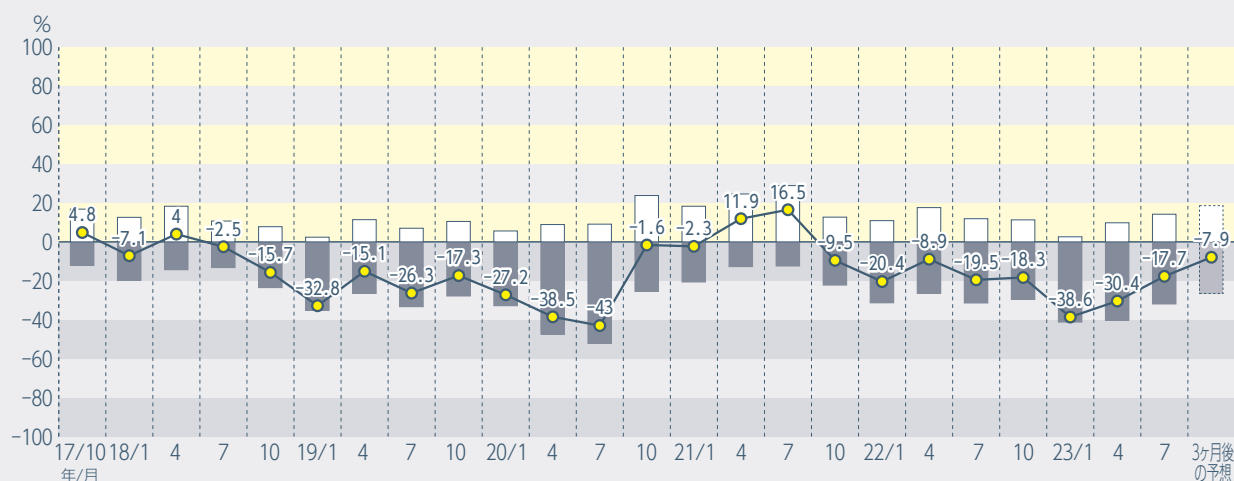
3ヵ月前との比較

回答全社の収益性判断DIは「好転」企業19.2%、「悪化」企業27.1%の△7.9で、前回調査時の△20.3から改善した。製造業は△17.7で前回の△30.4から改善したが、依然水面下で推移している。**材料高、原油高、電気料値上げ、賃金上昇など収益を圧迫する要因が継続**している。非製造業は、「好転」企業28.1%、「悪化」企業18.8%の9.3で、前回の0.0から改善した。

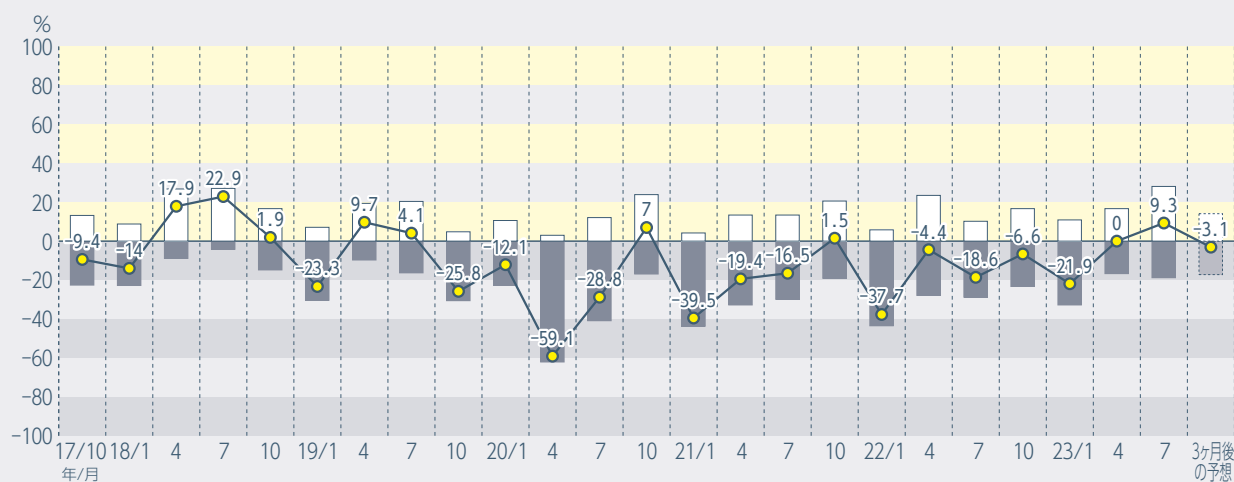
3ヵ月後の予想

回答全社の収益性予想DIは、△6.3で、前回の△8.3からやや改善した。製造業は△7.9で、依然悪化予想の企業が上回るが、前回の△14.7からやや改善した。非製造業は△3.1で前回の5.0から悪化した。前回33.4で全体をけん引した観光・サービス業が7.1となり、商業が0.0から△3.3、建設業が△5.0から△10.0とマイナス水準になり、**収益環境は依然厳しさ**が予想される。

●製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



●非製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



雇用状況

2023年6月の諏訪地方の有効求人倍率は、前年同月を0.25ポイント下回り、前月を0.04ポイント下回る1.30倍だった。**6ヵ月連続で前年同月を下回った**。県内は3ヵ月連続低下の1.44倍、全国は2ヵ月連続低下の1.30倍だった。全国の完全失業率は前月比0.1ポイント低下の2.5%だった。

諏訪地方は、新規求人数が1,577人で、前年同月比187人減少（△10.6%）し、3ヵ月連続で前年同月を下回った。一方、新規求職者数は688人で、前年同月比23人増加（3.5%）した。産業別の前年同月

比の新規求人数は、飲食店・宿泊業が14.8%、医療・福祉業28.2%と増加し、建設業が△20.4%、製造業△31.8%、運輸・郵便業が△8.8%、卸売業・小売業は△22.8%と減少した。

物価の上昇で家計が圧迫され、生活防衛のために求職活動をする人が増えた。一方、各産業で人手不足感がある中、製造業は原材料不足による生産調整や海外の消費低迷による減産、人件費の増加などで求人を手控える動きがあった。

経営上の課題（3つまでの複数回答）

経営上の課題として①製造業は売上減少と労働力確保②商業は労働力確保と売上減少、競争激化③建設業は労働力確保と人件費④観光・サービス業も労働力確保と人件費だった。

今回の回答では、**人件費と労働力確保の両方を課**

題とする企業が多かった。製造業では「現在の売上では余剰人員を抱える事になるが、受注回復時の事を考えるとリストラもできない」とする声があった。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	84	71	9	3	1
単 価 引 下 げ	13	7	2	3	1
競 争 激 化	30	16	9	2	3
資 金 繰 り	40	27	7	3	3
人 件 費	56	32	6	9	9
労 働 力 確 保	99	57	16	17	9

諏訪地方主要経済指標

		実 数	前年同期比
有効求人倍率【6月】（諏訪公共職業安定所管内）		1.30倍	△0.25ポイント
国県公共工事【7月】 （税抜・地元企業受注分）	件 数	6件	△8件
	金 額	431百万円	△821百万円
6市町村公共工事受注【7月】 （税抜・業務委託除く）	件 数	88件	△4件
	金 額	1,761百万円	915百万円
車庫証明取扱件数【7月】（諏訪地方合計）		851件	8.2%
新設住宅着工戸数【2023年4月～6月】（諏訪管内）		205戸	△10.8%

2023年7月の状況 (企業%) ●価格転嫁 ●材料電気等コスト

●価格転嫁

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	完了	不変	不足	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	完了	不変	不足
全 体		177	14.7	64.4	20.9	177	20.9	57.6	21.5	177	13.0	71.8	15.3
製 造 業		113	11.5	65.5	23.0	113	20.4	54.0	25.7	113	10.6	73.5	15.9
規 模	1～29人	60	10.0	73.3	16.7	60	23.3	58.3	18.3	60	10.0	75.0	15.0
	30～99人	40	12.5	60.0	27.5	40	20.0	47.5	32.5	40	12.5	70.0	17.5
	100人～	13	15.4	46.2	38.5	13	7.7	53.8	38.5	13	7.7	76.9	15.4
中 分 類	金属製品 製造業	30	10.0	73.3	16.7	30	23.3	60.0	16.7	30	13.3	76.7	10.0
	一般機械 製造業	27	7.4	77.8	14.8	27	22.2	63.0	14.8	27	18.5	66.7	14.8
	電気機械器具 製造業	20	10.0	40.0	50.0	20	15.0	50.0	35.0	20	5.0	70.0	25.0
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	45.5	45.5	11	9.1	36.4	54.5	11	9.1	63.6	27.3
	精密機械器具 製造業	11	18.2	81.8	0.0	11	18.2	63.6	18.2	11	0.0	100.0	0.0
非 製 造 業		64	20.3	62.5	17.2	64	21.9	64.1	14.1	64	17.2	68.8	14.1
商 業		30	20.0	63.3	16.7	30	26.7	63.3	10.0	30	23.3	60.0	16.7
建 設 業		20	15.0	75.0	10.0	20	15.0	70.0	15.0	20	15.0	80.0	5.0
観光・サービス業		14	28.6	42.9	28.6	14	21.4	57.1	21.4	14	7.1	71.4	21.4

●材料電気等コスト

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下
全 体		177	51.4	43.5	5.1	177	72.9	21.5	5.6	177	48.6	49.2	2.3
製 造 業		113	43.4	49.6	7.1	113	72.6	21.2	6.2	113	42.5	54.9	2.7
規 模	1～29人	60	51.7	41.7	6.7	60	73.3	21.7	5.0	60	48.3	51.7	0.0
	30～99人	40	37.5	57.5	5.0	40	77.5	17.5	5.0	40	30.0	65.0	5.0
	100人～	13	23.1	61.5	15.4	13	53.8	30.8	15.4	13	53.8	38.5	7.7
中 分 類	金属製品 製造業	30	33.3	60.0	6.7	30	73.3	20.0	6.7	30	33.3	63.3	3.3
	一般機械 製造業	27	40.7	48.1	11.1	27	59.3	29.6	11.1	27	55.6	40.7	3.7
	電気機械器具 製造業	20	40.0	50.0	10.0	20	70.0	20.0	10.0	20	35.0	60.0	5.0
	輸送用機械 器具製造業	11	45.5	54.5	0.0	11	72.7	27.3	0.0	11	54.5	45.5	0.0
	精密機械器具 製造業	11	63.6	36.4	0.0	11	81.8	18.2	0.0	11	36.4	63.6	0.0
非 製 造 業		64	65.6	32.8	1.6	64	73.4	21.9	4.7	64	59.4	39.1	1.6
商 業		30	73.3	23.3	3.3	30	66.7	23.3	10.0	30	70.0	30.0	0.0
建 設 業		20	50.0	50.0	0.0	20	80.0	20.0	0.0	20	45.0	55.0	0.0
観光・サービス業		14	71.4	28.6	0.0	14	78.6	21.4	0.0	14	57.1	35.7	7.1

2023年7月の状況 (企業%) ●コロナの影響 ●労働力 (パート含む)

●コロナの影響

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	多大	多少	なし	回答 企業数	多大	多少	なし	回答 企業数	多大	多少	なし
全 体		177	3.4	36.7	59.9	177	3.4	40.7	55.9	177	1.1	40.7	58.2
製 造 業		113	3.5	36.3	60.2	113	3.5	40.7	55.8	113	0.9	40.7	58.4
規 模	1～29人	60	5.0	36.7	58.3	60	5.0	43.3	51.7	60	1.7	41.7	56.7
	30～99人	40	2.5	37.5	60.0	40	2.5	40.0	57.5	40	0.0	42.5	57.5
	100人～	13	0.0	30.8	69.2	13	0.0	30.8	69.2	13	0.0	30.8	69.2
中 分 類	金属製品 製造業	30	6.7	33.3	60.0	30	6.7	40.0	53.3	30	3.3	36.7	60.0
	一般機械 製造業	27	0.0	48.1	51.9	27	0.0	48.1	51.9	27	0.0	51.9	48.1
	電気機械器具 製造業	20	5.0	20.0	75.0	20	5.0	30.0	65.0	20	0.0	35.0	65.0
	輸送用機械 器具製造業	11	0.0	54.5	45.5	11	0.0	54.5	45.5	11	0.0	54.5	45.5
	精密機械器具 製造業	11	0.0	45.5	54.5	11	0.0	54.5	45.5	11	0.0	36.4	63.6
非 製 造 業		64	3.1	37.5	59.4	64	3.1	40.6	56.3	64	1.6	40.6	57.8
商 業		30	0.0	46.7	53.3	30	0.0	53.3	46.7	30	0.0	50.0	50.0
建 設 業		20	0.0	25.0	75.0	20	0.0	25.0	75.0	20	0.0	25.0	75.0
観光・サービス業		14	14.3	35.7	50.0	14	14.3	35.7	50.0	14	7.1	42.9	50.0

●労働力 (パート含む)

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI
全 体		177	18.6	67.8	13.6	5.0	177	24.3	56.5	19.2	5.1	177	9.6	81.9	8.5	1.1
製 造 業		113	16.8	68.1	15.0	1.8	113	24.8	54.0	21.2	3.6	113	8.8	82.3	8.8	0.0
規 模	1～29人	60	11.7	78.3	10.0	1.7	60	21.7	63.3	15.0	6.7	60	10.0	83.3	6.7	3.3
	30～99人	40	22.5	55.0	22.5	0.0	40	30.0	42.5	27.5	2.5	40	7.5	85.0	7.5	0.0
	100人～	13	23.1	61.5	15.4	7.7	13	23.1	46.2	30.8	-7.7	13	7.7	69.2	23.1	-15.4
中 分 類	金属製品 製造業	30	20.0	76.7	3.3	16.7	30	30.0	63.3	6.7	23.3	30	6.7	86.7	6.7	0.0
	一般機械 製造業	27	3.7	70.4	25.9	-22.2	27	3.7	55.6	40.7	-37.0	27	3.7	96.3	0.0	3.7
	電気機械器具 製造業	20	30.0	50.0	20.0	10.0	20	35.0	40.0	25.0	10.0	20	15.0	75.0	10.0	5.0
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	81.8	9.1	0.0	11	27.3	63.6	9.1	18.2	11	0.0	81.8	18.2	-18.2
	精密機械器具 製造業	11	0.0	81.8	18.2	-18.2	11	0.0	72.7	27.3	-27.3	11	0.0	63.6	36.4	-36.4
非 製 造 業		64	21.9	67.2	10.9	11.0	64	23.4	60.9	15.6	7.8	64	10.9	81.3	7.8	3.1
商 業		30	10.0	76.7	13.3	-3.3	30	13.3	70.0	16.7	-3.4	30	13.3	80.0	6.7	6.6
建 設 業		20	15.0	75.0	10.0	5.0	20	25.0	60.0	15.0	10.0	20	5.0	95.0	0.0	5.0
観光・サービス業		14	57.1	35.7	7.1	50.0	14	42.9	42.9	14.3	28.6	14	14.3	64.3	21.4	-7.1

2023年7月の状況 (企業%) ●自社の業況 ●収益性

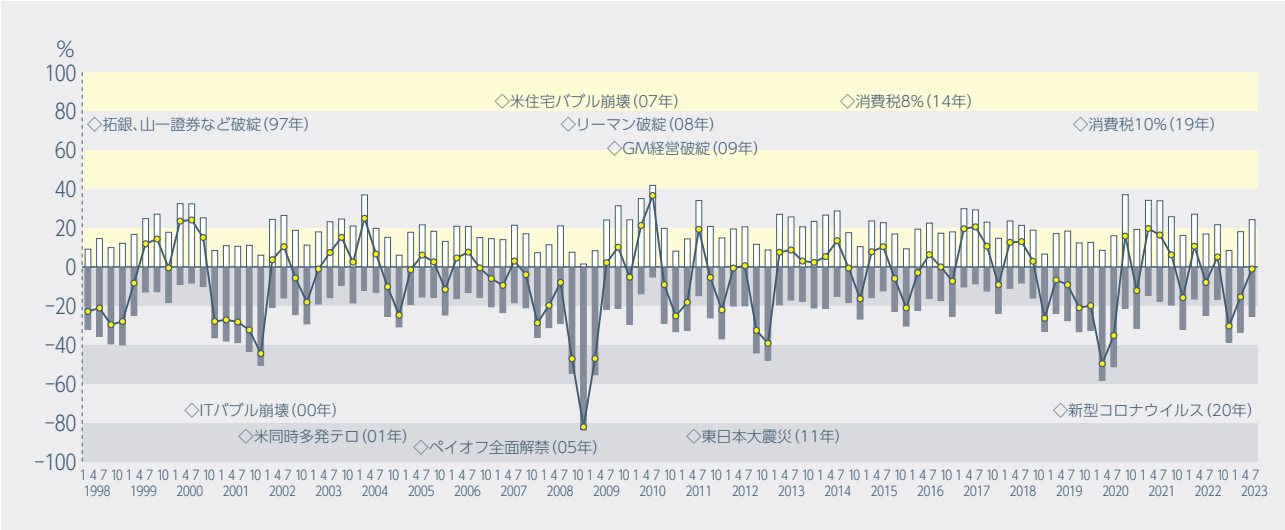
●自社の業況

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全 体		177	24.3	50.3	25.4	-1.1	177	22.6	43.5	33.9	-11.3	177	21.5	60.5	18.1	3.4
製 造 業		113	19.5	46.9	33.6	-14.1	113	17.7	38.1	44.2	-26.5	113	19.5	57.5	23.0	-3.5
規 模	1～29人	60	23.3	45.0	31.7	-8.4	60	20.0	38.3	41.7	-21.7	60	18.3	58.3	23.3	-5.0
	30～99人	40	12.5	45.0	42.5	-30.0	40	15.0	37.5	47.5	-32.5	40	20.0	55.0	25.0	-5.0
	100人～	13	23.1	61.5	15.4	7.7	13	15.4	38.5	46.2	-30.8	13	23.1	61.5	15.4	7.7
中 分 類	金属製品 製造業	30	20.0	43.3	36.7	-16.7	30	16.7	40.0	43.3	-26.6	30	23.3	53.3	23.3	0.0
	一般機械 製造業	27	11.1	55.6	33.3	-22.2	27	3.7	51.9	44.4	-40.7	27	18.5	59.3	22.2	-3.7
	電気機械器具 製造業	20	15.0	55.0	30.0	-15.0	20	30.0	25.0	45.0	-15.0	20	15.0	60.0	25.0	-10.0
	輸送用機械 器具製造業	11	27.3	36.4	36.4	-9.1	11	27.3	36.4	36.4	-9.1	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
	精密機械器具 製造業	11	18.2	36.4	45.5	-27.3	11	18.2	18.2	63.6	-45.4	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
非 製 造 業		64	32.8	56.3	10.9	21.9	64	31.3	53.1	15.6	15.7	64	25.0	65.6	9.4	15.6
商 業		30	30.0	50.0	20.0	10.0	30	30.0	46.7	23.3	6.7	30	30.0	60.0	10.0	20.0
建 設 業		20	20.0	75.0	5.0	15.0	20	20.0	65.0	15.0	5.0	20	25.0	65.0	10.0	15.0
観光・サービス業		14	57.1	42.9	0.0	57.1	14	50.0	50.0	0.0	50.0	14	14.3	78.6	7.1	7.2

●収益性

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全 体		177	19.2	53.7	27.1	-7.9	177	18.1	50.3	31.6	-13.5	177	16.9	59.9	23.2	-6.3
製 造 業		113	14.2	54.0	31.9	-17.7	113	14.2	46.0	39.8	-25.6	113	18.6	54.9	26.5	-7.9
規 模	1～29人	60	18.3	50.0	31.7	-13.4	60	18.3	41.7	40.0	-21.7	60	20.0	53.3	26.7	-6.7
	30～99人	40	5.0	62.5	32.5	-27.5	40	7.5	55.0	37.5	-30.0	40	15.0	55.0	30.0	-15.0
	100人～	13	23.1	46.2	30.8	-7.7	13	15.4	38.5	46.2	-30.8	13	23.1	61.5	15.4	7.7
中 分 類	金属製品 製造業	30	13.3	53.3	33.3	-20.0	30	13.3	46.7	40.0	-26.7	30	26.7	46.7	26.7	0.0
	一般機械 製造業	27	3.7	59.3	37.0	-33.3	27	3.7	48.1	48.1	-44.4	27	18.5	48.1	33.3	-14.8
	電気機械器具 製造業	20	15.0	60.0	25.0	-10.0	20	15.0	50.0	35.0	-20.0	20	20.0	55.0	25.0	-5.0
	輸送用機械 器具製造業	11	27.3	45.5	27.3	0.0	11	27.3	45.5	27.3	0.0	11	18.2	45.5	36.4	-18.2
	精密機械器具 製造業	11	9.1	45.5	45.5	-36.4	11	9.1	45.5	45.5	-36.4	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
非 製 造 業		64	28.1	53.1	18.8	9.3	64	25.0	57.8	17.2	7.8	64	14.1	68.8	17.2	-3.1
商 業		30	23.3	46.7	30.0	-6.7	30	23.3	53.3	23.3	0.0	30	16.7	63.3	20.0	-3.3
建 設 業		20	20.0	70.0	10.0	10.0	20	15.0	70.0	15.0	0.0	20	5.0	80.0	15.0	-10.0
観光・サービス業		14	50.0	42.9	7.1	42.9	14	42.9	50.0	7.1	35.8	14	21.4	64.3	14.3	7.1

回答全社：業況判断DIの推移 (当金庫の調査開始から)



調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ①調査期間 2023年7月。
- ②調査内容 「2023年7月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④DI回答数 177企業。
- ⑤回答率 70.8%

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依 頼 数	160	40	30	20	250
回 答 数	113	30	20	14	177

ビッグモーターの今後と経営の原理原則

株式会社小宮コンサルティング CEO
小宮 一慶 氏



今回はマクロ経済から離れビッグモーターの問題を取り上げます。言語道断と言っている犯罪行為を繰り返していたわけで、経営コンサルタントとしても許せる話ではありません。大きな関心は、この後、ビッグモーターの命運はどうなるのかということでしょう。財務状況などを勘案しながら、ビッグモーターの今後を占っていきたいと思います。

ビッグモーターは上場していないため、正確な財務状況は分かりません。ここで説明するのは、あくまでも新聞やテレビで報道されている内容がベースで、推測の域を出ないことを予めご了承ください。

ビッグモーターの業容(昨年度、推測)

売上高	5800億円
営業利益	数百億円
従業員数	6000名
融資残高	600億円

まず、売上高ですが、昨年度で5800億円程度といわれています。売上げの大部分(9割程度)が中古車販売で、残りが修理や保険販売などと考えられます。

中古車販売の利益率は車によって大きな差があると考えられますが、競争の激しい業界でもあり、おおむね15%から20%前後であると考えられ、前年度でざっくり1000億円程度を全事業から得ていると考えられます。

経費ですが、従業員が正社員5000人、非正規従業員が1000名の合計6000名とホームページにはあります。給料は比較的高いと言われており、正社員の年収が平均800万円、非正規社員の年収が500万円と仮定すれば、450億円程度の人件費がかかっていると考えられます。

また、テレビCMなどもよく見かけましたが、おそらく数百億円程度は年間に使っていると考えられます。他に、店の維持費や賃借料、店舗設備などの減価償却費などを考えると、あくまで推測ですが、700億円から800億円程度の経費が掛かっており、営業利益で200から300億円程度と推測できます。純利益で150億円から、200億円程度と考えられ、営業キャッシュフローも同程度だと推測できます。

一方、店舗を急拡大することで業容を拡大しており、300店舗超を擁しています。店舗拡大には、土地の取得とともに、店舗建設の費用が必要となります。土地は賃借物件が多いと考えられますが、店舗は自前で建てる必要があります。また、拡大にともなう人件費の増加も

あり、いずれにしても多額の資金が必要です。店舗建設のためや中古車の在庫確保のための資金は先に必要で、銀行融資で賄っていると考えられ、昨年9月末で約600億円の融資残高があると伝えられています。(8月11日付日経朝刊)

そして、評判の急激な悪化により、業績が大きく落ちていることは間違いありません。この状況でビッグモーターに修理や車検を出す人はいないでしょう。私の知り合いも、同社に車検に出したら、法外な費用を請求され、さんざん交渉しても一切それには応じず泣く泣く支払ったと言っていました。

さらに、損保各社にも、金融庁が調査に入っていますが、今後はビッグモーターとかかわりを持たない方向で進むものと考えられます。

注目は、中古車の買入れ、販売の事業です。このうち、この状況で中古車をビッグモーターから買う人は少なくとも当面は激減すると予想できます。中古車にローンをつけるリース会社も、関係を見直す動きが進んでいます。

一方、中古車の買取りについては、こちらも取り扱いが減ると考えられますが、ある程度はビジネスを維持できると考えます。他社よりも数万円高い値段を提示すれば、車売る人は一定数いると考えられ、買った車をオークションで売ることは可能です。

こうした状況の中で、利益やキャッシュフローの確保ができるかというのが最大の焦点ですが、業容が大きく落ちている中での利益確保はかなり難しいと考えます。

また、従業員の給与のかなりの部分は歩合だったらしく、その引き留めのために今後は給与の補填を行うそうです。これも資金負担がかかります。

こういう点を考えれば、今後、銀行が融資を継続するかが焦点ですが、ビッグモーターにとっては簡単な話ではないでしょう。

こうした中、前社長と前副社長の兼重親子は、経営からは退きましたが、ある意味責任逃れしたわけですね。

いずれにしても、今後の銀行のスタンスとビッグモーターの命運に注目ですが、「お客さま第一」を通じて働く人を活かし、社会に貢献するという経営の原理原則を忘れては、企業は成り立たないことを再度認識なくてはなりません。



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号
TEL 0266-23-4567 FAX 0266-24-4055
<http://www.suwashinkin.co.jp/>

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
電話 0266-23-4567

本誌の電子版はこちらから▶

